

韓国における独島・竹島に関する研究及び市民団体の活動について

孔 義 植
崔 永 鎬

1. はじめに

独島・竹島に対する韓国及び韓国人の思いは、日本及び日本人のそれに対する思いとは比べにならないほど強力で、根強い。韓国人は、独島・竹島が日韓どちらの領土であるかという問い自体に拒絶反応を見せている。独島・竹島は言うまでもなく韓国の領土であるとして、これを議論すること自体を受け入れようとしなない。このように韓国人が独島・竹島に対して強力で過剰な関心を見せている背景には、韓国人が独島・竹島問題を領土問題ではなく、歴史問題として認識しているからである。独

島・竹島問題をめぐっては、慰安婦問題や靖国神社参拝問題とは異なり、韓国側が同島を実効支配しているために有利な状況にあることから、この問題だけは絶対に譲らないという強い思いが反日感情と繋がって噴出されていると思われる。こうしたことから韓国においては、政府関連の研究機関をはじめ、大学の付属研究所、市民団体など、様々なところで、独島・竹島に関する研究、教育、保護、および広報活動が活発に行われている。本報告では、こうした韓国における独島・竹島に関する研究や市民団体の活動や実態に関してオフライン、そしてオンラインを網羅してまとめてみる。

2. 政府関連の研究機関

(1) 独島研究所

独島研究所は、政府基金により設立された「東北アジア歴史財団」の第三研究室の組織と体制を拡大・改編して、二〇〇八年にスタートした。独島研究において、研究員の数や組織、ネットワーク、資金などの規模の面でトップであり、調査や教育、学術交流、出版などの研究の面でも他の研究機関を圧倒している。

この研究所の設立目的は、独島に関する長期的・総合的な研究と分析、体系的・戦略的な政策の策定と遂行、東海・独島表記に関連する体系的な誤謬の是正活動などとなっている。主な事業としては、①領土・海洋関連の政策対応（独島関連の中長期総合対応戦略の開発と政策の諮問、国内関係機関との協力体制の構築、海外研究者の領土・海洋関連の主張に対するバックアップ）、②領土・海洋関連の調査と研究（国内外での学術交流及び学術書籍・雑誌の発行、独島に関する歴史資料の調査研究、独島関連の外国政府文書の調査と分析、領土・海洋に関する国際判例及び国際法の研究、独島関連のアーカイブの構築）、③独島関連の教育と広報（独島に関する統合広報体制の構築、東海・独島についての広報資料の制作及び展示、東海・独島の

オンライン教育及び広報、独島関連教材の開発と出版、教員の独島訪問及び教育、独島守護拠点学校及び独島アカデミーの運営支援、東海・独島関連の国内外の民間団体への支援）、④東海・独島表記の誤謬の是正（表記名称の調査及び古地図の収集、東海表記の普及に向けた交渉と海外専門家の招聘、学会議の開催及び海外専門家ネットワークの構築）、⑤独島体験館の管理及び運営（独島体験館の施設と従業員管理、展示品の解説とプログラムの運営、独島体験館の教育・広報プログラムの運営、国内の関連機関との協力、展示資料の収集・研究・展示）の五点などが掲げられている。

この研究所から発行された学術著書は、『東アジア領土問題と独島』、『韓日古文書から見る独島』、『我が地——独島に会う』、『鬱陵島・独島日本資料集Ⅰ』、『鬱陵島・独島日本資料集Ⅱ』、『ヨーロッパの独島認識』、『歴史と地理から見る鬱陵島・独島』、『独島研究』、『独島——鬱陵島から見える』、『近代移行期における韓日境界に関する認識研究』、『国土の表象』、『鬱陵島・独島研究——歴史・考古、地理学的考察』、『独島と韓日関係——法・歴史的接近』、『独島問題の学際的研究』、『世界紛争の解決路NGOネットワーク』、『世界の領土紛争データベースと植民侵奪の事例』、『日本軍部の独島侵奪史』、『韓日歴史関連の国際法論文選集』、『独島論文翻訳選1』、『独島論文翻訳選

2』、『独島論文翻訳選3』、『独島資料集1』、『独島資料集2』、『Dokdo 独島』に加えて、英文の *Dokdo: A Korean Island Rediscovered*、*Conflict Resolution and Peace Building*、*Territorial Issues in Europe and East Asia*、*Dokdo: Korean Territory Since the 6th Century* がある。その他にも、六七六本の論文、一六七本の古資料、二六本の法律資料、一本のレポート、一二本の独島研究資料がこの研究所から発表されている。

(2) 韓国海洋科学技術院東海研究所

韓国海洋科学技術院東海研究所は、一九九六年に韓国海洋科学技術院の下部機関として、東海開発及び海洋科学技術を研究する目的で設立された。主な事業として、東海の環境研究と海洋資源開発システムの構築による環境保全と安全確保を追求した環東海圏での総合的な海洋資源の開発を行っている。同時に、独島と鬱陵島を連携させたいえでの持続可能な利用を独島専門研究機関から情報を得て推進している。

(3) 韓国海洋水産開発院独島・海洋領土研究センター

韓国海洋水産開発院独島・海洋領土研究センターは、韓国海洋水産開発院 (KMI) の下部機関として、二〇〇六年に発足した。主な事業として、海洋領土における領土主権の強化策を研究している。国際法や諸外国の領土紛争での領土主権強化の

事例などを調査研究することをおして、独島をはじめとする韓国が抱える領土問題に体系的に対応するための法的・論理的方策を開発している。二〇一五年には政府から独島の持続可能な利用のための研究機関に指定され、今後、海洋水産政策の観点から独島に対する研究調査を行うと見込まれている。

(4) 独島博物館

独島博物館は、一九九七年八月に独島を管轄する鬱陵郡に設置された。韓国唯一の領土博物館であり、日本の独島領有権主張に反駁する資料などが展示されている。さらに、独島及び朝鮮海 (Sea of Korea) に関する関連資料の発掘・収集・研究を行い、その結果に基づいて展示・教育・広報活動を実施して、韓国人の領土意識と民族意識の向上に努めている。

この博物館の二階には、鬱陵島と独島周辺の漁場を日本人から守ったとされてきた安龍福を記念する記念館を設けて(二〇一三年一〇月開設)、彼の業績と関連資料を紹介している。また、ソウルに位置するソウル歴史博物館の中には、独島体験館が設けられている。

なお、ここまで見てきた政府関連の機関以外にも、韓国中央研究院や国史編纂委員会などの学術機関でも、独島に関する研究が行われている。

3. 民間研究機関

(1) 社団法人 韓国独島研究院

韓国独島研究院は、二〇〇二年に設立された。韓日間で争点となつている独島問題の平和的な解決のため、従来の制限的かつ消極的な政府間の議論から脱皮して、純粋なNGOの活動を通じて相反する歴史認識を再整理して、国際法的・歴史的資料を中心とする論理展開だけでなく、安保および軍事面での愛国心の高揚と安保意識の向上に資する教育を行うことによつて、究極的には独島を守るための方策を探出すことを目的とする。

主な事業としては、①独島に対する安保概念の整理、②著作活動、③主要国との研究ネットワークの構築、④独島関連学術大会への積極的な参加、⑤世界規模のNGO活動のための基盤構築、⑥市・道教育庁との協調体制の構築、⑦中高生や軍人に対する独島安保教育、⑧世界韓国学大会への参加、⑨鬱陵島と独島の探訪、⑩米国・中国同胞に対する特別講義、⑪中長期的な研究基盤の構築、⑫独島守護国民運動の展開、⑬学術報告大会、⑭「独島・対馬の家」の開館、⑮独島死守の広報及び決議大会、⑯世界NGO大会への参加と協調体制の構築などを掲げている。

この他にも「領土研究所」や「又石韓国領土研究所」、「領土

守護意志・独島研究所」などの民間研究機関もある。

4. 大学の独島関連研究機関

(1) 嶺南大学校独島研究所

嶺南大学校では独島が属する行政区域である慶尚北道に位置する大学であるという縁もあつて、一九八〇年代から研究者個人レベルで独島の歴史と文化のみではなく、地理や生態系などを中心とする研究も行われてきた。こうした中で二〇〇五年、島根県の「竹島の日」制定をきっかけとして、独島が韓国の領土であることを積極的にアピールする必要性から、大学の付属研究所として現在の独島研究所が設立された。

この研究所の設立目的は、竹島をはじめ東海岸文化圏に関する資料の収集・整理とその研究となつている。この研究所の事業としては、①独島をはじめとする東海岸の文化と歴史の研究、独島遠近海の生態系と資源の調査及び研究、海洋資源関連の法律に関する研究、②日本側の基礎資料及び研究資料の収集と研究、③独島をはじめとする東海岸文化圏に関する研究、④研究成果の出版、⑤独島問題に関する対外広報活動、⑥外部関係機関との協力、⑦国内外のプロジェクトの受注、⑧その他、本研究soの目的と関連する事業などが掲げられている。

(2) 慶北大学校鬱陵島・独島研究所

慶北大学校鬱陵島・独島研究所は、鬱陵島と独島に関する自然・生態系や国際法、尋問者会的側面についての研究を通じて鬱陵島と独島の保存方法を探し、自然環境及び有用な生物を開発して、自然公園及び持続可能な生態観光資源の確保することを目的として設立された。研究及び活動領域として、鬱陵島と独島に関する自然・生態系、国際法、人文社会に関する研究、ならびに地質、自然景観、土壌、植生、植物像、昆虫像、鳥類像、無脊椎動物像、微生物像、線虫像、蘚苔類像、土壌内の花粉の分析などを掲げている。

この研究所の主な活動は、①鬱陵島と独島の陸上生態系に関する研究と保存戦略の確立、②鬱陵島と独島の有用生物及び生態観光資源の開発、③鬱陵島と独島に関する教育課程の開設と運用、④独島の法的地位の確立、⑤独島関連古文書のデータベース化、⑥その他、研究所の目的達成に必要な事業、がある。

この研究所では、『独島天然保護区域モニタリング(二〇一三～二〇一四) 報告書「地質」、『独島天然保護区域モニタリング(二〇一三～二〇一四) 報告書「地形及び景観」、『独島天然保護区域モニタリング(二〇一三～二〇一四) 報告書「原生生物」、『独島天然保護区域モニタリング(二〇一三～二〇一四) 報告書「海洋無脊椎動物」、『独島天然保護区域モニ

タリング(二〇一三～二〇一四) 報告書「微生物」、『独島天然保護区域モニタリング(二〇一三～二〇一四) 報告書「鳥類像」、『独島天然保護区域モニタリング(二〇一三～二〇一四) 報告書「植物像」、『独島天然保護区域モニタリング(二〇一三～二〇一四) 報告書「総論」などの論文と報告書を発行している。

(3) 大邱大学校独島領土学研究所

この研究所は、設立目的において、独島領土に関しては否定できない歴史的な権原があり、その権原に基づいた国際法的地位が認められているにもかかわらず、日本はこうした歴史的な権原を無視し、独島に対する領有権を主張して独島に対する韓国の歴史的な権原や国際法的な地位を深刻に歪曲していると述べている。日本の主張に対抗するために、独島に関する歴史的な資料を発掘し、これに基づいて独島の歴史的な権原と国際法的な地位を考証し、こうした結果を対内外的に広報することを目的にしている。

この研究所の活動としては、①独島講座の開設、②独島関連講師の養成、③独島関連の専門書発行、④独島関連の啓蒙書発行、⑤専門家のネットワークの構築、⑥独島・鬱陵島の文化の発掘、⑦独島関連の同好会作りとその支援、などが掲げられている。

(4) 世宗大学校独島総合研究所

世宗大学校独島総合研究所は、独島に対する日本の挑発に対応するためだけでなく、韓国の領土である独島を効率的に開発し、こうした事業を通じて国民を統合する目的で設立された。既存の独島領有権の研究、すなわち歴史的、国際法的研究に加えて、国内法的な観点からも研究を進め、独島に対する実効支配を強化する方法や国民統合を実現する方法、海外同胞社会を独島問題を通じて結束させる方法などを研究している。

この研究所が対象としている研究分野は、①独島領有権問題に関する歴史的・地理的・国際法的研究、②独島問題を媒介とした国内外の国民統合方法の研究、③独島に関する国内法の研究、④独島開発研究（独島の地形、地質、建設問題、接岸施設補修問題、環境に優しい開発研究、海底研究など）、⑤鬱陵島・独島の観光開発研究、の五点である。さらに、研究所の基本事業としては、①学術研究を通じた国民統合、②資料収集と探査、③国内外における学術シンポジウムの開催、④対外広報・出版事業・多言語ホームページの運営、⑤その他本研究所の目的に適した事業が設定されている。

(5) 慶一大学校独島間島研究所

二〇〇七年に設立された慶一大学校独島間島研究所は、独島及び間島（中国東北部にある延辺朝鮮族自治州にある地域であ

り、一部の韓国人はこの地域を韓国の領土だと主張している）に関する教育を目的としている。領土問題に体系的・持続的に対応するためには国民の領土問題に関する正しい知識と認識が必要であるにも関わらず、現実には多くの国民が正しい知識を持っていないという観念に立ち、独島と間島に対する研究結果と知識を国民に伝えることを目指している。そのため領土問題に関する教育と現地訪問の重要性を強調している。

(6) 慶州大学校独島・鬱陵学研究所

二〇〇六年に設立された慶州大学校独島・鬱陵学研究所は、独島に関する広報活動と独島関連コンテンツの開発を目的としている。この研究所では、主に芸術分野での活動を通じて独島の重要性を国民にアピールしている。二〇〇九年には「二〇〇九年独島を愛するカレンダー」を制作・配布するなど活動を行い、独島に対する知的財産権を確保することにより領土紛争での日本に対する優位の確立を目指している。

(7) 大邱漢医大学校安龍福研究所

大邱漢医大学校安龍福研究所は、韓国と日本から見る鬱陵島・独島に対する認識の比較、日韓の共同認識による安龍福像の確立、鬱陵島・独島周辺地域の調査、安龍福に関する資料の発掘による実態把握を行っている。

5. 学会

(1) 独島学会

独島学会は、一九九六年に独島に関する客観的な研究を通じて独島が韓国の領土であることを明確にし、独島に対する主権的レベルでの政策施行に役に立つ学術研究を行うことを目的として発足した。主な事業としては、①独島領有権に関するシンポジウムの開催、②独島研究叢書の発刊、③独島領有権関連の資料の発刊事業に対する支援、などを行っている。

この学会では、一九九六年から二〇一〇年にかけて、一八回の独島領有権に関するシンポジウムを開催した。さらに、一〇冊の独島研究叢書と二冊の独島領有権広報資料（なぜ日本の独島領有権主張は誤りなのか）、二冊の独島領有権広報漫画（Love You, Dokdo）、ならびに九ヶ国語に翻訳された独島領有権案内資料も出版した。独島や領土関連の研究に携わっている学者や研究者のみでなく、政府基金の国策研究所の関係者や公務員なども会員として活動している。

(2) 東海研究会

東海研究会は、国際社会において鬱陵島と独島が属する「東海」の地名を回復するため、一九九四年一月に設立された非営利団体である。東海という地名を研究し、広報することを目

的としていると同時に、独島をはじめ東海関連の生態系の研究も行っている。

主な活動には、東海関連の国内外でのセミナーの開催だけでなく、国連地名専門家会議、国連地名標準化会議、IHO (International Hydrographic Organization: 国際水路機関) 総会などの地名関連会議に代表団を派遣して、東海地名関連の広報資料及び地図の制作・配布などがある。

6. 市民団体

オフライン上の市民団体

(1) 独島守護国際連帯

独島守護国際団体は二〇〇六年に設立され、大学生らに独島に対する正しい知識を教育することを目的として「独島知識アカデミー」を運営している。二〇〇七年から現在までに二一七〇人の大学生がこの課程を修了した。この他にも、独島本部と韓国詩人協会独島支部などで独島を広報する活動を展開している。さらに、この団体は、独島関連の教育課程を運営すると同時に、各大学に独島関連のサークルを組織し、活動するよう様々な支援を行っている。

(2) 財団法人 独島財団

独島財団は、官民共同で設立された団体であり、民間レベル

での独島守護事業及び国内外への広報活動と独島領土主権強化を目的として、二〇〇九年に設立された。

主な事業としては、①国民教育プログラム（国内外の学校などを訪問して独島に関する歴史的な事実を教育して、領土守護意志を固める）、②広報プログラム（独島をテーマとして多様な文化行事と創作活動を行うことによって、独島を芸術の島としていく）、③現場体験プログラム（独島守護のための国民的共感の醸成、独島の歴史に関する認識の共有、鬱陵島と独島の訪問体験を通じた安龍福思想と国土守護意志の拡散）、④ネットワーク強化プログラム（日本の独島に関する挑発に対して国民が心をつなぐためのネットワークの拡大と連携事業の強化）、⑤研究プログラム（日本による独島の地域紛争化戦略に効果的に対応するための独島領土主権に関する客観的な資料の収集と発掘、独島関連の各種の国内外の資料の収集と研究成果の提供）、などを掲げている。

(3) 独島本部

独島本部は、独島の領土主権を完全に回復し、国民の領土意識を高め、領土保存の基礎になる歴史と民族精神・民族文化を回復することを目的として設立された。

主な事業としては、①領土主権の関連事業、②韓民族の文化的・歴史的な境界に関する研究・調査・広報事業、③伝統文化

の保存と継承、④領土と海洋に関する事業、⑤国と社会をよくする事業、⑥以上のような事業を行っている団体や個人に対する支援、などを掲げている。

なお、この他にも「独島を正しく知る運動本部」や「独島を生かす国民運動本部」、「独島運動本部」、「独島守り国民行動本部」などの数多くの市民団体がある。

(4) 独島を愛する本部

独島を愛する本部は、多様な形で独島を愛する活動を通じて国民の国土愛と歴史意識を高めると同時に、独島が韓国の領土であることを世界に広報することを目的として活動をしている。主な事業として、朝鮮戦争参戦国連軍の子孫に対する独島訪問の斡旋、独島広報のアニメーションの制作、独島を愛する内容の駐車ステッカー装着運動、「竹島の日」撤廃運動、「独島の日」記念行事、独立軍の子孫に対する独島訪問の斡旋、独島に関するフォーラムやセミナーの開催、SNS上での独島記者団の運営、町での独島広報行事などを行っている。さらに、国民の独島訪問運動 (Welcome To Dokdo) を展開して、独島に対する韓国の実効支配を強化する運動を続けている。

(5) 独島研究保存協会

独島研究保存協会は、一九九六年に設立された鬱陵郡管轄の独島の領有権問題を研究するための民間団体である。設立目的

として、独島が韓国の領土であることを歴史的に研究し、その正当性を確保することを明記している。

この協会の主な活動として、独島が韓国の領土であることを証明する研究を強化して、その結果を世界にアピールすると同時に、独島関連の文献や資料を体系的に収集・編集して資料集を発刊している。年一回、学術大会や討論会を開催するとともに、学術研究集や単行本、資料集、広報物などを発行している。こうした活動を通じて政府にEEZ問題、専管水域問題を提起している。さらに、この協会では、独島に埠頭施設や人工地盤を作るなどの開発を行い、鬱陵島住民の漁業前進基地を建設するとともに、観光地として活用することを提案している。また、一九九七年には『独島領有権の歴史と国際関係』をはじめとして、四冊にまとめられた『独島領有権資料の探求』などの出版物を発刊している。

(6) 独島義勇守備隊記念事業会

独島義勇守備隊記念事業会は、一九五三年から一九五六年まで民間人の身分で志願して、独島を守った三三人の義勇守備隊を記念して設立された。現在まで生存している隊員と遺族に対する支援事業や独島に対する教育、広報事業を行っている。さらに、中高生を対象として独島義勇守備隊青少年名誉隊員を募集して、夏休みに独島を訪問して独島を探訪する教育事業を実施

施している。また義勇隊記念館建立推進事業も進めている。

(7) 独島守護隊

独島守護隊は、独島を守護するため、独島に関する学術探査や水中探査などを行っている。

(8) 独島義兵隊

独島義兵隊は、独島を広報する方法として署名運動を展開し、すでに一〇〇万人を超える署名を集めている。さらに、毎年、全国で独島を愛する文芸作品コンテストを開催している。

(9) 独島有人化国民運動本部

独島有人化国民運動本部は、一九八七年に創立された「克日運動市民連合」を母体として、一九九七年二月に独立・発足した。独島に戸籍を移す運動と独島の有人島化運動を推進している。

(10) 独島歴史探し運動本部

「韓民族独島探し運動本部」を母体として発足した独島歴史探し運動本部は、五〇あまりの団体を束ねて組織した連合体である。独島問題に関する声明書や新聞広告、独島訪問など、独島問題の全般に関する大衆の関心を引き起こすための活動を行っている。

(11) 緑色の鬱陵・独島作り会（社団法人）

鬱陵島の現地で組織され、長い歴史を持つ緑色の鬱陵・独島

作り会は、独島の有人島化事業と造林事業、青少年教育、独島生態系保存事業などを行っている。

(12) コリア独島緑色運動連合

江源道の江凌に本部を置くコリア独島緑色運動連合は、定期的に独島探訪団を募集して、独島を探訪する活動を行っている。

オンライン上の団体

(1) 国民安全庁海洋警備安全本部（元海洋警察庁）の「独島の海を守ろう」

国民安全庁海洋警備安全本部が運営するこのサイトでは、独島の正確な位置や古文書の記録から見る独島、独島を守っている人々の物語、さらに、独島に関する日本の政策変化など、あらゆる角度から独島に照点を当てている。七つのセクションから成るこのサイト内の日韓の争点比較セクションで、韓国と日本の独島領有権に対する主張や論拠が時期ごとに一目瞭然に整理している。さらに、類似する他国の領土紛争の事例も紹介されている。海洋警察の活動や独島の入島情報、独島の天気なども発信している。

(2) 慶尚北道サイバー独島

慶尚北道サイバー独島は、独島が属している慶尚北道が運営する独島関連のホームページであって、独島に対する韓国政府

の基本的立場や日本の独島領有権主張に対する反論をはじめ、独島に対する慶尚北道の管理状況や方針、独島の自然など、独島に関するあらゆる面での広報を韓国語だけでなく英語、日本語、および中国語で行っている。

(3) バンク（VANK）

バンクは、インターネット上で韓国を世界に知らせる「サイバー外交使節団」の役割を担っている団体である。バンクという名前は、“Voluntary Agency Network of Korea”の略である。このサイトは、一九九九年に外交官とのペンパルを斡旋するサイトとして開設され、現在は民間部門での韓国の対外広報を担当する代表的な団体の一つである。全世界の八億のネイティブを対象として、韓国のイメージを変えることを目標に、主にネット上での韓国関連情報の誤謬の是正活動を行っている。その中でも、「独島を正しく知る」ということに力を入れている。このため、この団体では「サイバー外交官養成課程」と「独島士官学校」という課程を設けて、独島がなぜ韓国の領土であるかなど、独島に関する知識や情報を画像などを通じて教育している。

(4) 独島を愛して守る会

独島を愛して守る会は、サイワールドのサイトで活動する同好会で、全国的なネットワークを構成して独島問題を共有し、

広報活動を行っている。

(5) 独島を愛する同好会

独島を愛する同好会は、一九九八年にパソコン通信の千里眼に開設された韓国初の独島関連の通信同好会として、国内で活発な活動を展開している。

(6) 美人独島

美人独島は、ホームページを作って青少年と一般人に、独島の歴史や地理などに関する情報を提供している。二〇〇二年に釜山教育支援庁から青少年向け推薦ホームページとして選ばれた。

これらの他にも、国土交通部傘下の国土地理情報院が運営している「独島地理ネット」や海洋水産部が運営している「独島総合情報システム」、海洋水産部傘下の国立海洋調査院が運営している「我が領土独島」、「DAUM独島同好会(DAUM)」、「大韓民国独島を愛する会(DAUM)」、「独島守護カフェ(NAVER)」など、数多くの独島関連ホームページがある。

7. おわりに

以上、見てきたように韓国には数え切れないほどの独島・竹島関連の政府や民間の研究所や市民団体、ホームページが存在している。先に掲げた研究所や市民団体以外にも登録されている。

ない団体やホームページを持っていない団体も数多く存在する。政府関連の研究所をはじめとする各種の研究所や団体の設立目的や事業内容は、独島に関する資料の発掘や調査、研究、広報、教育、領土主権守護、探訪、学術交流、出版など、大同小異であつて、多くの研究所や団体がほぼ同じ活動をしていることが分かる。

さらに、こうした独島・竹島関連の研究所や市民団体が本来の設立目的や趣旨に該当する事業や活動を実際にやっているとは限らない。政府基金で運営されている「東北アジア歴史財団」傘下の「独島研究所」のように、専門の研究者や組織、資金を持つて体系的に研究や調査活動を行っている研究所がある反面、実際には開店休業状態にある研究所も多数存在する。大学の独島・竹島関連研究所においても、領土問題や独島・竹島問題を専攻する専任教員や研究員によって研究所が成り立っているところより、関連分野を専攻している一人の教員を中心として、これに一〜二名の助手を加えた形で運営されることが多い。さらに、独島・竹島関連の市民団体も持続的に活動を行っている団体もあれば、看板だけを掲げて活動をやっていない団体も多い。稀ではあるが、独島への渡航の便宜を図るために、一時的にこうした団体を立ち上げているケースも報告されている。

このように、韓国において独島・竹島関連の研究所や市民団体が乱立していることは事実であるものの、こうした現象はいかに韓国人が独島・竹島に対して高い関心を持っているかを物語っている。

△参考ホームページ▽

- 独島研究所 <http://www.dokdohistory.com/kor/gnb06/sub03.do>
 韓国海洋科学技術院東海研究所 <http://www.kiost.ac.kr/lab.do>
 韓国海洋水産開発院独島・海洋領土研究センター <http://www.marinecom.re.kr/>
 (社団法人) 韓国独島研究院 <http://place.map.daum.net/17377521>
 独島博物館 <http://www.dokdomuseum.go.kr/>
 韓国学中央研究院 <http://www.aks.ac.kr/home/index.do>
 国史編纂委員会 <http://www.history.go.kr/>
 領土研究所 <http://www.jdokdo.com/>
 又石韓国領土研究所 <http://k2.dankook.ac.kr/user/territory/>
 嶺南大学校独島研究所 <http://dokdo.yu.ac.kr/?cattempt=1>
 慶北大学校鬱陵島・独島研究所 <http://www.dokdoknu.com/>
 大邱大学校独島領土学研究所 <http://dokdoterritory.degu.ac.kr/>
 世宗大学校独島総合研究所 <http://cquune.blog.me/70094867675>
 慶一大学校独島間島研究所 <http://www.kiu.ac.kr/korean/main/>
 慶州大学校独島・鬱陵学研究所 <http://www.gju.ac.kr/>
 大邱漢医大学校安龍福研究所 <http://www.dhu.ac.kr/korean/>
 独島学会 <http://www.dokdoinkorea.or.kr/>
- 独島研究保存協会 <http://ulleung.grandculture.net/>
 東海研究会 <http://ulleung.grandculture.net/>
 独島守護国際連帯 <http://www.dokdonetwork.or.kr/gnuboard4/index.php>
 (財団法人) 独島財団 <http://www.koreadokdo.or.kr/>
 独島本部 <http://www.dokdocenter.org/>
 独島を愛する本部 <http://www.dokdosarang.org/>
 独島義勇守護隊記念事業会 <http://www.dokdofoundation.or.kr/>
 独島守護隊 <http://www.tokdo.kr/>
 独島義兵守護隊 <http://www.dokdofoundation.or.kr/>
 独島有人化国民運動本部 http://cafe.daum.net/anadok/_album/
 独島歴史探し運動本部 <http://www.dokdocenter.org/>
 国民安全庁海洋警備安全本部 (元海洋警察庁) の「独島の海守り」
<http://www.kcg.go.kr/main/user/cms/content.jsp?menuSeq=522>
 慶尚北道サイバー独島 <http://www.dokdo.go.kr/pages/main/>
 バンク(VANK) <http://prkorea.com/>
 独島を愛して守る会 <http://ilovedokdokorea.com/>
 独島を愛する同好会 <http://www.dokdolove.net/>
 美人独島 <http://myhome.naver.com/minitokdo/main.htm>
 D A U M 独島同好会 (D A U M) <http://www.dokdolove.net/>
 独島守護カペー (N A V E R) <http://cafe.naver.com/cafeinformate/1997>
 外交部独島 <http://dokdo.mofa.go.kr/kor/>
 独島地理ネット <http://dokdo.ngii.go.kr/dokdo/>
 我が領土独島 <http://www.khoa.go.kr/dokdo/>
 独島総合情報システム <http://www.dokdo.re.kr/>
 サイバー独島 <http://www.dokdo.go.kr/pages/main/>